

8月の衛研検査情報

～トピックス～

横浜市における2014/2015シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析

主な結果 横浜市における2014/2015シーズンのインフルエンザの流行は、AH3型ウイルスが主流であり、分離・検出数の89%（212件）を占めました。B型ウイルスは11%（25件）の割合で、このうち系統別では山形系統が84%（21件）を占め優勢でした。AH1pdm09ウイルスは1株分離されたのみで流行はみられませんでした。

残留農薬検査（平成27年度 その1）

微量汚染物担当では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。今回は、平成27年4月から6月までに食品専門監視班及び各区福祉保健センターより搬入された農産物について検査を行いました。

主な結果 市内産農産物35検体について検査を行ったところ、10種類19項目の農薬が検出されました。市内産を除く国内産農産物5検体については、2種類2項目の農薬が検出されました。いずれも、残留農薬の基準値を超えるものではありませんでした。

シックハウス対策検査 ～パラジクロロベンゼンについて～

室内空気中に放散した化学物質で居住者等の体調不良を引き起こす「シックハウス症候群」に関する問題が多く報告されています。本市では「横浜市公共建築物シックハウス対策ガイドライン」を策定し、室内空気中の有害化学物質濃度の低減化に取り組んでいます。

主な結果 平成24年度に国立保健医療科学院が実施した全国調査に協力し、横浜市内の公共建築物18施設と横浜市及びその周辺地域の個人住宅77戸において、室内空気環境の実態調査を行いました。公共建築物でのパラジクロロベンゼンの室内濃度は、夏季・冬季とも低い値を示しました。個人住宅では、約9割の住宅が厚生労働省の指針値の半分以下でした。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、感染症情報や保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報等を提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成27年7月は、クロストリジウム-ディフィシル感染症、B群レンサ球菌感染症、エンテロウイルスに関するページのアクセスが多くみられ、総件数は102,239件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。